

# History

キラリを再発見

## 黒曜石の石器が光っていた

「星の糞遺跡」は、考古学研究者だった白羽神社前宮司の高山建吉氏により、昭和初期に発見され、昭和44年に旧御前崎町の史跡に指定されました。昭和52年から旧御前崎町教育委員会によって本格的な発掘調査が実施され、奈良時代の住居跡が2軒発見。その下からは約6,000～5,000年前の縄文時代前期の縄文土器や4,500点以上に及ぶ多量の石器が出土しました。

現在御前崎支所で、星の糞遺跡の出土品などを展示した「大原川・中西川流域の埋蔵文化財」展示を開催中です。



御前崎市指定文化財 <sup>ほし</sup> <sup>くそ</sup> 星の糞遺跡



出土品/縄文時代の土器



# Atomic

暮らしと原子力

シリーズ1 耐震対策の歴史

大地震が発生した際には、確実に▼原子炉を停止させる▼原子燃料を冷やす▼放射性物質を閉じ込めることが重要です。この3原則を徹底するために、発電所の重要な建物や設備は、耐震設計されています。国は発電所の安全性を確認するために、この設計が想定される大地震に耐えうるのか確認しなくてはなりません。その基準を明記しているのが「発電所用原子炉施設に関する耐震設計指針」です。つまり、原子力発電所の仕様書のようなもの。発電所の各施設は、昭和56年7月と平成18年9月に改訂された指針を基に評価を受けています。

耐震安全性を評価する主な目安は、想定される地震の最大の揺れの強さを見積もった「基準地震動」。最大加速度(ガル)とも呼ばれ、原子炉や建屋、配管などの構造や強度が基準地震動に耐えられるか評価します。中部電力は、想定東海地震やそれを上回る地震と考えられている安政東海地震などを考慮して発電所3、4、5号機を建設。基準地震動を安全上重要な施設は450ガル、安全上特に重要な施設を600ガルとし安全性を評価・確認しています。

平成13年に国の中央防災会議が、東海地震の想定震源域を見直し、最大加速度を395ガルと想定しました。その数値を各施設に照らし合わせると、安全性は確保されると評価しています。さらに同社は、平成18年9月の指針改訂に伴い、安全上特に重要な施設の基準地震動を800ガルに設定し評価。施設の安全性を確認しています。その評価結果は現在国で審議中です。